

2019年度政務調査研究活動実績報告書

県民の会
代表 中内 桂郎

2019年度の政務調査研究に関する主な活動の実施状況は以下のとおりである。

- 1 森林林業政策、林産特産物について
- 2 移住者との意見交換について
- 3 集落活動センターの取り組みについて
- 4 戦争文化財の在り方について
- 5 行幸マルシェ×青空市場長での農産物販売等について
- 6 四国内の観光・公共交通・林活議連に出席し情報共有・意見交換
- 7 児童福祉法の改正について
- 8 県一漁業構想について
- 9 外国人労働者の就労状況調査について
- 10 県内雇用情勢について
- 11 日台友好の取り組みについて
- 12 台湾における弘光科技大学とのインターンシップ協定に向けた調査について
- 13 西日本大震災における県内外の被災地調査について
- 14 南海トラフ地震対策などについて

7月31日 7月豪雨災害調査について

西日本豪雨災害では、高知自動車道の立川トンネル南側坑口付近で大規模な土砂流出が発生したことにより、立川橋の上部工が土砂の直撃を受けるなどの大被害をはじめ道路、河川の被害は甚大なものでありました。

道路災害のうち国道・県道の県管理の緊急輸送道路で全面通行止めがあわらて67路線に上ったことも明らかになっています。

7月31日には、幡多土木事務所と幡多土木事務所宿毛事務所において、県民の会会派議員で、7月豪雨災害の被害状況の聞き取りと、被災現場も調査させて頂きました。

特徴的な現場として、視察させて頂いた県道昭和中村線の四万十市竹屋敷地区においては、地すべり災害で全面通行止めになった区間で、地域の方々の協力で山側に人道を設置し、仮設道路の設置に着手し、四万十ウルトラマラソンのコースとなっていることから仮設道・仮橋を整備し、マラソン大会までに間に合わすべく対応されていました。

現場では、県職員が被災市町村のマンパワー不足を補う取り組みなども行いながら、復旧工事が急がれています。

